

開始する。そして、地域から収集した分析結果を収集に協力した自治体（ボゴール市など）や企業に還元する活動を開始する。さらに、この種の海外情報収集活動を基に、京都市（京都）、茨木市（大阪）、国内地域産業界からの情報収集可能性について再検討する。

(2) 各年度の計画

事業全体

平成 25 年度

以下サブテーマで研究を推進する

- ① Web/SNS データ駆動の観光・防災政策科学の研究
- ② データ駆動型学習支援：個に最適化した学習支援サイバー学習空間の研究
- ③ 意思決定・コミュニケーションプロセスに関わる情報循環の高度化と標準化
- ④ 自殺予防対策等に関する独自統計整備と予防政策支援
- ⑤ 安全規準など策定のための数理的方法整備とその食品安全分野などへの実装

平成 26 年度

以下サブテーマにしづり研究を推進する

- ① 観光・地域経済活性化及び防災・減災政策決定支援システム
- ② 学習ログデータ駆動型学習支援システム
- ③ 政策科学・経営科学に資する意思決定・コミュニケーションプロセス

平成 27 年度

以下サブテーマで研究を推進する

- ① 観光・地域経済活性化及び防災・減災政策決定支援システム
- ② 学習ログデータ駆動型学習支援システム
- ③ 政策科学・経営科学に資する意思決定・コミュニケーションプロセス

サブテーマ

- ① 観光・地域経済活性化及び防災・減災政策決定支援システム

平成 25 年度

複数の Web サイトから横断的にデータを収集し、サイトごとに偏りのあるデータを統合することで、実世界の宿泊施設利用状況を把握するシステムを研究する。

平成 26 年度

地域の政策実行主体である自治体や、観光協会や商工会議所などの事業者が、科学的根拠データに基づいた合理的な観光政策や観光産業活性化政策を支援するシステムを研究する。

平成 27 年度

収集したデータを分析・合成して、公的観光統計データと比較する方法を検討し、Web 予約データの信頼性を確保するシステムを研究する。

- ② データ駆動型学習支援：個に最適化した学習支援サイバー学習空間の研究

平成 25 年度

Web テストで得られた学習・評価（テスト）データを認知診断モデルにもとづいて分析し、個々人の学習プロセス・成果を推定するシステムを研究する。

平成 26 年度

データマイニング・可視化手法等を駆使して、情報空間上に大量に蓄積される学習活動にかかるデ

ータ（学習ログ）の中から、学習者の特性や学習スタイル、進度、学習者間コミュニケーションなど、学習改善に資する情報を抽出するシステムを研究する。

平成 27 年度

認知診断テストと学習ログの両方から得られる結果を融合するシステムを研究する。

③ 政策科学・経営科学に資する意思決定・コミュニケーションプロセス

平成 25 年度

事象の不確実性のみならず、人間行動の不確定性を配慮した政策、投資、スポーツ、ビジネスゲームなどの意思決定に必要な数理的基礎研究を推進する。

わが国が幹事国を務め、代表者が委員長を務める ISO TC69 SC8 における意思決定支援プロセスの標準化（ISO 16355 「製品・サービス開発を加速する統計的方法と関連技法」規格の第 1 部から第 8 部）を米国、ドイツの研究者、英国、南アフリカ統計局の実務家などと共同で起案する。平成 25 年度は環境変動に対して頑健なデザインを可能とする我が国発の統計数理技術としての Robust Parameter Design（第 6 部）の国際標準化作業を完結させる。

平成 26 年度

平成 25 年度に行った基礎研究を引き続き推進するとともに、政策を含むサービスの開発を加速する統計的方法ないしは関連管理技術の枠組みの中で活用可能な方法論の蓄積を図る。また、効率的かつ頑健なシナリオ決定プロセスに必要な集団間コミュニケーションに関する基礎研究を行う。国際標準化に関しては、顧客や社会の声の収集のための統計的プロセス（第 3 部）と価値に関わる情報循環プロセス全体の概要を示す規格原案（第 1 部）の作成を支援する。

平成 27 年度

事象の不確実性のみならず、人間行動の不確定性を配慮した政策、投資、スポーツ、ビジネスゲームなどの意思決定に関する応用研究を統計数理科学のみならず、ファジー理論、金融工学など多様な分野の研究者と共に推進する。国際標準化に関しては、顧客や社会の声の収集のための統計的プロセス（第 3 部）と価値に関わる情報循環プロセス全体の概要を示す規格原案（第 1 部）の作成を完結させる。

[3] 研究推進・実施体制

サブテーマ 1：Web/SNS データ駆動の観光・防災政策科学の研究

・研究代表者

[国立情報学研究所] 曽根原登

・共同研究者

[統計数理研究所] 椿 広計

[新領域融合研究センター] 一藤 裕

[情報・システム研究機構] 渋谷和彦

[同志社大] 津田博史

[広工大] 加藤浩介

[広島大] 片桐英樹

[県立広島大] 市村 匠

[岡山大] 笛田 薫

[高知大] 畠山 豊

[国立保健医療科学院] 奥村貴史

サブテーマ2：データ駆動型学習支援：個に最適化した学習支援サイバー学習空間の研究

・研究代表者

[国立情報学研究所] 曽根原登

・共同研究者

[国立情報学研究所] 孫 媛、西澤正己、鈴木雅之、柿沼澄男

[統計数理研究所] 尾崎幸謙

[新領域融合研究センター] 豊田哲也

[情報・システム研究機構] 田中優子

[学芸大] 島田めぐみ、谷部弘子

[明治学院大学] 川端一光

[イリノイ大] HuaHua Chang

サブテーマ3、4、5：政策科学・経営科学に資する意思決定・コミュニケーションプロセス

・研究代表者

[統計数理研究所] 椿 広計

・共同研究者

[統計数理研究所] 田村義保、金藤浩司、瀧澤由美、逸見昌之、河村敏彦、伏木忠義、久保田貴文

[大阪大] 蓬池 隆

[九州大] 大西俊郎

[慶應大] 山内慶太、渡辺美智子

[東京医科歯科大] 富田 誠

[同志社大] 津田博史

[広島大] 片桐英樹

[和歌山県立医科大] 岡 檍

[国立医薬品食品衛生研究所] 春日文子

[国立精神・神経医療研究センター] 竹島 正、立森久照、山内貴史

[産業技術総合研究所] 小池昌義

[日本科学技術連盟] 加藤洋一

[林技術士事務所] 林 利弘

[QFD Institute] Glen Mazur

[Universität Stuttgart] George Herzwurm

[4] 研究の進捗状況

社会コミュニケーションはH25年度は以下5つのサブテーマで研究推進した。

- ① Web/SNS データ駆動の観光・防災政策科学の研究
- ② データ駆動型学習支援：個に最適化した学習支援サイバー学習空間の研究
- ③ 意思決定・コミュニケーションプロセスに関わる情報循環の高度化と標準化
- ④ 自殺予防対策等に関する独自統計整備と予防政策支援
- ⑤ 安全規準など策定のための数理的方法整備とその食品安全分野などへの実装

H26年度からは以下3つのサブテーマに集中する。

- ① 観光・地域経済活性化及び防災・減災政策決定支援システム

- ② 学習ログデータ駆動型学習支援システム
- ③ 政策科学・経営科学に資する意思決定・コミュニケーションプロセス

[5] 研究成果物

[A-① Web/SNS データ駆動の観光・防災政策科学の研究]

[A-② データ駆動型学習支援：個に最適化した学習支援サイバー学習空間の研究]

- ① 知見・成果物・知的財産権等

- ② 成果発表等

<論文発表>

[学術論文]

1. 一藤裕, 曽根原登, “プライバシーポリシーを用いた Web/SNS サイトの信頼性推定方法”, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol.J96-D, No.6, pp.1493-1502, Jun. 2013
2. 西村健, 中村素典, 山地一楨, 佐藤周行, 大谷誠, 岡部寿男, 曽根原登, “多様なポリシーを反映可能な認証フェデレーション機構の実現”, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol.J96-D, No.6, pp.1400-1412, Jun. 2013
3. Htoo Htoo, Yutaka Ohsawa, Noboru Sonehara, Masao Sakauchi, “Incremental Single-source Multi-target A* Algorithm for LBS Based on Road Network Distance”, IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems, Vol.E96-D, No.5, pp.1043-1052, 2013/05/01
4. 津田博史, 多田舞, 山本俊樹, 山本俊樹, 一藤裕, 曽根原登, “Web データを用いた京都市のホテル業界に関する応用研究”, 情報知識学会誌 23巻, 4号, pp.442-451, 2013
5. 島田めぐみ, 孫媛, 谷部弘子「認知診断テスト開発のための日本語語彙認知的要素の検証」, 東アジア日本語教育・日本文化研究, 16, 1-16, 2013年5月
6. 谷部弘子, 孫媛, 島田めぐみ, 「学習者へのフィードバックを重視した診断テスト—日本語語彙能力を例に—」『ヨーロッパ日本語教育』18、ヨーロッパ日本語教師会、pp. 187-192, 2014
7. Yuan Sun and Masayuki Suzuki, “Diagnostic Assessment for Improving Teaching Practice”, International Journal of Information and Education Technology, 3(6), 607-610, December 2013
8. 畠山豊、宮野伊知郎、片岡浩巳、中島典昭、渡部輝明、奥原義保、問診データに対する潜在トピックモデルに基づく健診データ解析、医療情報学、33(5):267-277, 2013

<会議発表等>

[一般講演：国際会議]

1. Hidenobu Oguri, Noboru Sonehara, “A K-Anonymity Method Based on SEM (Search Engine Marketing) Price of Personal Information”, Social Computing (SocialCom), 2013 International Conference on, IEEE, pp.1011-1015, 2013/9/8[査読有り]
2. Noriaki Koide, Koji Okuhara, Noboru Sonehara, “Characterization of personal behavior trajectory with enhanced spherical self-organizing map”, Computer Science and Engineering Conference (ICSEC), 2013 International, IEEE, pp.153-156, 2013/9/4[査読有り]
3. Kelly Y Itakura, Noboru Sonehara, “Using Twitter's Mentions for Efficient Emergency Message Propagation”, Availability, Reliability and Security (ARES), 2013 Eighth International Conference on, IEEE, pp.530-537, 2013/9/2[査読有り]
4. Memiko Otsuki, Noboru Sonehara, “Estimating the Value of Personal Information with SNS

- Utility”, Availability, Reliability and Security (ARES), 2013 Eighth International Conference on, IEEE, pp.512-516, 2013/9/2[査読有り]
5. Haruhiro Fujita, Noriaki Koide, Noboru Sonehara, Koji Okuhara, Hiroe Tsubaki, Joko Prayitno, “Environmental credit social system for good practices”, Technology, Informatics, Management, Engineering, and Environment (TIME-E), 2013 International Conference on, IEEE, pp.1-4, 2013/6/23[査読有り]
 6. Koji Okuhara, Noriaki Koide, Haruhiro Fujita, Hiroe Tsubaki, Noboru Sonehara, “Design of interaction in environmental load chain as connected directed network”, Technology, Informatics, Management, Engineering, and Environment (TIME-E), 2013 International Conference on, IEEE, pp.37-42, 2013/6/23[査読有り]
 7. Yasushi Hirano, Nobuya Negishi, Yoshiyuki Ipposhi, Junichi Yamaguchi, Noboru Sonehara, Shu Kuramoto and Tsutomu Sawada: Fault- and Disaster-Resistant Medical Cloud System for Various Medical Applications, 2013 IEEE 15th International Conference on e-Health Networking, Applications and Services (Healthcom 2013), pp.460-464, 2013.10.9-12, Technical University of Lisbon, Lisbon, Portugal [査読有り]
 8. 谷部弘子, 島田めぐみ, 孫媛, 「学習者へのフィードバックを重視した診断テスト—日本語語彙能力を例に—」『第 17 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム予稿集 (The 17th Symposium on Japanese Language Education in Europe)』 p.45、マドリード・コンプルテンセ大学 (スペイン)、2013.9.7 (査読あり)
 9. Yuan Sun, Hiroko Yabe, and Megumi Shimada, “Development of Diagnostic Japanese Vocabulary Assessment for non-native speakers’ Learning”, Proceeding of the 35th International Language Testing Research Colloquium (LTRC2013), International Language Testing Association, p.72, Seoul, Korea, July, (2013). (査読あり)
 10. Sun, Y. & Suzuki, M., Diagnostic assessment for improving teaching practice, 5th International Conference on Education Technology and Computer, 3(6), 607-610, December 2013. (査読あり)
 11. Yuan Sun, Masayuki Suzuki and Tetsuya Toyota, “Designing Effective Feedback for Cognitive Diagnostic Assessment in Web-based Learning Environment”, Proceeding of the 21st International Conference on Computers in Education (ICCE 2013), pp.115-120, Denpasar Bali, Indonesia, November, 2013. (査読あり)
 12. I. Krontiris, A. Albers, N. Sonehara, and I. Echizen, “Coupons as Monetary Incentives in Participatory Sensing,” Proc. of the 12th IFIP Conference on e-Business, e-Services, e-Society (I3E 2013), IFIP Advances in Information and Communication Technology, vol. 399, pp.226-237, Springer, (April 2013)
 13. H-Q. Nguyen-Son, A-T. Hoang, M-T. Tran, H. Yoshiura, N. Sonehara, and I. Echizen, " Anonymizing Temporal Phrases in Natural Language Text to be Posted on Social Networking Services," Proc. of the 12th International Workshop on Digital-Forensics and Watermarking (IWDW 2013), LNCS, 15 pages, Springer (October 2013)
 14. T. Bui, B. Nguyen, T. Nguyen, N. Sonehara, and I. Echizen, “Robust Fingerprinting Codes for Database,” Proc. of the 13th International Conference on Algorithms and Architectures for Parallel Processing (ICA3PP-2013), LNCS, Vol.8286, pp.167-176, Springer, (December 2013)
 15. T. Bui, B. Nguyen, T. Nguyen, N. Sonehara, and I. Echizen, “Effective Fingerprinting Codes for Database,” Workshop on Dependable and Trustworthy Web and Distributed System (DTWD2013),

Proc. of the 9th International Conference on Signal Image Technology & Internet Based Systems (SITIS2013), pp655-659, (December 2013)

16. Noriki Koike, Yutaka Hatakeyama, Shinich Yoshida, Supervised Learning of functional Magnetic Resonance Imaging Data for Brain Decoding, The 14th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2013), F3a-2, 2013 Nov
17. Yutaka Hatakeyama, Shinichi Yoshida, Hiromi Kataoka, Yoshiyasu Okuhara, Multi-voxel pattern analysis of fMRI based on deep learning method, The 14th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2013), F3a-5, 2013 Nov

[ポスター・デモ発表：国際会議]

1. Suzuki, M., Relationship between values of a test and learning strategies: Using test approach-avoidance tendency as a mediator and competence as a moderator, 15th Biennial Conference of the European Association for Research on Learning and Instruction, (2013). (査読あり)

[招待講演：国内会議]

1. 曾根原登, “サイバーフィジカル融合社会(CPiS)におけるビッグデータ駆動型 ICT イノベーション～保護と活用が調和する ID データコモンズの提案～”, LOIS ICM, volIEICE-113, 2014.1.16-17, 長崎歴史文化博物館, [招待講演]

[一般講演：国内会議、研究会等]

1. 原直, 笠井昭範, 阿部匡伸, 曾根原登, ``クラウドソーシングによる環境音収集のためのスマートデバイス用アプリケーションの開発,”電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 113, No. 479, LOIS2013-59, pp. 29-34, Mar. 2014.
2. 小栗秀暢, 曾根原登, “実サービスのデータを用いた k-匿名状態の推移調査と, 合理的な匿名状態評価指標の検討”, 情報処理学会研究報告. マルチメディア通信と分散処理研究会報告, 2014-DPS-158(4), 1-8, 2014-02-27
3. 田之上光一, 串間宗夫, 荒木賢二, 鈴木斎王, 山崎友義, 曾根原登, “介護ライログのテキストデータ分析と現場へのフィードバックについて”, 医療情報学連合大会論文集, 33巻, pp.934-937, 2013.11.20
4. 一藤裕, 曾根原登, “宿泊施設の Web 予約データに基づいた観光行動分析”, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集 2013, pp. 92-93, 2013.09.11
5. Hoang-Quoc NGUYEN-SON, Hiroshi YOSHIURA, Noboru SONEHARA, “A Recommendation System for Anonymous Fingerprinting of Text Posted on Social Networks (マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント)”, 電子情報通信学会技術研究報告= IEICE technical report: 信学技報 113巻 66号, pp. 31-36, 2013/5/24
6. 原直, 笠井昭範, 阿部匡伸, 曾根原登, ``クラウドソーシングによる環境音収集のためのスマートデバイス用アプリケーションの開発,”電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 113, No. 479, LOIS2013-59, pp. 29-34, Mar. 2014. (口頭発表)
7. 豊田哲也, 鈴木雅之, 孫媛「Web 学習空間における認知診断テストを活用した学習改善」, 日本テスト学会第 11 回大会論文集, pp.122-125, 九州大学, 2013 年 8 月
8. 田中優子, 鈴木雅之, 孫媛, 子安増生, 道田泰司, 林創, 平山るみ, 楠見孝「ジェネリックスキルとしての批判的思考力テスト—得点パターンにもとづく認知的特徴の検討—」, 日本テスト学会第 11 回大会論文集,

pp.148-151, 九州大学, 2013年8月

9. 鈴木雅之, 孫媛「e ラーニングを利用した入学前教育の効果—早期入学決定者を対象とした英語学習—」, 日本行動計量学会第41回大会論文集, pp.186-189, 東邦大学, 2013年9月
10. 鈴木雅之, 孫媛, 豊田哲也, 谷部弘子, 島田めぐみ「日本語語彙能力と学習方略の関連—認知診断テストを活用した効果的なフィードバックの検討—」, 日本心理学会第77回総会発表論文集, 1152, 札幌コンベンションセンター, 2013年9月
11. 豊田哲也, 鈴木雅之, 孫媛「Moodle を用いた認知診断テストと学習ログ管理プラットフォームの開発」, 日本教育工学会第29回全国大会論文集, pp.681-682, 秋田大学, 2013年9月
12. 鈴木雅之, 孫媛, テスト観と学習動機が学習方略の使用に及ぼす影響, 第6回 国際ワークショップ: 社会のイノベーションを誘発する情報システム,(2014)
13. 豊田哲也, 孫媛, 柿沼澄男, 島田めぐみ, 谷部弘子, 「日本語学習者の利用データに基づく学習特性の分析」, 第6回 国際ワークショップ: 社会のイノベーションを誘発する情報システム,(2014)
14. 豊田哲也, 鈴木雅之, 孫媛「学習履歴から抽出したキーワードを利用したWeb上の学習コンテンツの特定」, 情報処理学会第76回全国大会論文集, 第4分冊 387-388, 東京電通大学, 2014年3月
15. 片岡浩巳、越智康浩、畠山豊、奥原義保、久原太助、小倉克巳、松村敬久、杉浦哲朗、CBC網赤血球計測チャンネルを用いた膵臓疾患の病態把握、第33回医療情報学連合大会、医療情報学、33(Suppl.), 590-593, 2013-11.
16. 畠山豊、片岡浩巳、中島典昭、渡部輝明、奥原義保、高知大学医学部附属病院におけるレプリケーションによるデータバックアップ構想、第33回医療情報学連合大会、医療情報学、33(Suppl.), 100-102, 2013-11.
17. 正田直人、片岡浩巳、畠山豊、奥原義保、小倉克巳、杉浦哲朗、検査の待合時間の短縮を実現する最適な誘導支援システムのシミュレーション、第33回医療情報学連合大会、医療情報学、33(Suppl.), 242-246, 2013-11.
18. 畠山豊、片岡浩巳、中島典昭、渡部輝明、奥原義保、GISを利用した浸水・土砂被害予測に基づく震災時外来患者動向予測、第33回医療情報学連合大会、医療情報学、33(Suppl.), 266-269, 2013-11.
19. 三木健生、鈴木匠、高橋康広、溝畑英樹、大友和則、石橋知明、畠山豊、片岡浩巳、奥原義保、急性腎障害(AKI)発症の入院時スクリーニング検査による事前予測モデルの構築、第33回医療情報学連合大会医療情報学、33(Suppl.), 606-609, 2013-11.
20. 鈴木匠、三木健生、高橋康大、溝畑英樹、大友和則、石橋知明、片岡浩巳、畠山豊、奥原義保、高尿酸血症患者群におけるAKI早期発見指標としての尿酸動態調査、第33回医療情報学連合大会、医療情報学 33(Suppl.), 812-815, 2013-11.
21. 高橋康大、鈴木匠、三木健生、溝畑英樹、畠山豊、片岡浩巳、竹内啓晃、奥原義保、診療データベースを用いた *Helicobacter pylori*に対する除菌率の変化と除菌治療に関連する疾患の解析、第33回医療情報学連合大会、医療情報学、33(Suppl.), 820-823, 2013-11.

<受賞>

1. Yuan Sun and Masayuki Suzuki, International Conference on Education Technology and Computer, Excellent Paper Awards.

<報道発表、プレスリリースなど>

1. 曽根原登, 日経ビジネス P42-45 「Suica ショックの教訓 データを「解放」せよ」

<著書等>

1. 尾崎幸謙, 豊田秀樹(編著), “項目反応理論[中級編]第10章「適応型テスト」”, 朝倉書店 (2013).

<シンポジウム等の構成・企画、研究集会の実施>

1. 曽根原登・他, 2014.02.3・5 国立情報学研究所 60名, 新領域融合研究 国際ワークショップ “社会のイノベーションを誘発する情報システム 人間中心のサイバーフィジカル融合社会”

[A-③④⑤ 政策科学・経営科学に資する意思決定・コミュニケーションプロセス]

① 知見・成果物・知的財産権等

1. 食品安全、環境安全、観光、医療など様々な分野におけるデータに基づく意思決定、政策決定がもたらす経済価値などについて取りまとめた。特に、産業環境情報に関わるデータ収集と還元は、eL-Platform の一部機能を切り出したモバイル端末上のシステムをインドネシア・ボゴール市の食品廃油回収事業に適用し、廃油の回収と再利用がライフサイクルアセスメント観点から、環境に好ましいという結果を得た。(椿、奥原、藤田、中野など)
2. 総合自殺対策の政策効果の検証に必要な地域自殺統計を国立精神・神経医療センターからの受託研究で更新した。(椿、久保田)
3. 前年度に続き自殺リスクの高い地域などの時空間集積性を精査するとともに、自殺に関するツイートなどの分析を進め、その特徴を明らかにした。(椿、久保田、伏木、立森、山内(貴)など)
4. 観光科学の研究では、地域観光の政策実行主体である自治体や、観光協会や商工会議所、ホテルなどの宿泊施設事業者が、データに基づいた合理的な観光政策、観光産業活性化、事業経営を実施するための情報収集・データ解析理論、手法、システムを研究することである。従来の観光に関するデータ調査方法は、年に多くて数回のアンケート調査などであるが、本研究においては、複数のWebサイトから横断的に日々の宿泊施設利用データや観光情報を収集し、日次で宿泊施設の稼働率や観光客の観光行動などを推定・予測する。本研究は、地域活性化のための観光政策決定支援に貢献できると共に、地震や台風などの災害になると、平常時と同じ使い方で宿泊者数の把握や、避難施設として利用可能な宿泊施設を把握できるなど防災にも役立つこととなる。(椿、津田、一藤、片桐、蓮池など)
5. <特許出願> 特願2013-197758「媒質境界の位置計測システム」, 2013年9月25日。
本発明は、マイクロ波の伝搬速度の差に基づいて、空間や媒質の境界位置を計測するシステムを実現するものである。人間を含む生物が、背景または近傍の物体位置を参照情報として用いることに基づく方式。(瀧澤)

② 成果発表等

<論文発表>

[学術論文]

1. 椿広計, 「田口の精密累積法のセミパラメトリックポアソンモデルによる再定式化」, 『応用統計学（応用統計学会）』, 42, pp.145-159, 2013. (査読あり)
2. Takeshita, J., Gamo, M., Kanefuji, K. and Tsubaki, H., "A quantitative activity-activity relationship model based on covariance structure analysis, and its use to infer the NOEL values of chemical substances," *Journal of Math-for-Industry*, Vol.5 B, pp.151-159, 2013. (査読あり)
3. Takizawa, Y. and Fukasawa, A., "Topographical Mapping by a Synchronous Neural System with Physical Measures of Time, Space, and Motion," *International Journal of Biology and Biomedical Engineering*, Volume 8, pp.63-69, 2014. (査読あり)

4. Fukasawa, A. and Takizawa, Y., "Activity of a Neuron and Synchronization in a Neural Group," *International Journal of Biology and Biomedical Engineering*, Issue 8, pp.35-43, 2014. (査読あり)
5. Fukasawa, A., Takizawa, Y., "Activity of a Neuron brought by Electro-Physical Dynamics," *International Journal of Mathematical Models and Methods in Applied Sciences*, Issue 8, Volume 7, pp.737-744, 2013. (査読あり)
6. Kawamura, T. and Motoyama, H., "Performance measures for asymmetric power loss function," *Comm. Statist. Theory Methods*, 2014. (accepted)
7. 河村敏彦, 高橋武則, 「動特性のパラメータ設計に対する統計的モデリングと最適化」, 『品質(日本品質管理学会)』, Vol.43, No.3, pp.102-109, 2013. (査読あり)
8. 高橋武則, 河村敏彦, 「非線型システムに対するロバストパラメータ設計」, 『品質(日本品質管理学会)』, Vol.43, No.2, pp.85-93, 2013. (査読あり)
9. 久保田貴文, 藤野友和, 富田誠, 石岡文生, 藤田利治, 「空間データベースを用いた隣接情報の作成と自殺データの集積性への応用」, 『統計数理(統計数理研究所)』, 61 (1), pp.167-176, 2013. (査読あり)
10. 富田誠, 石岡文生, 久保田貴文, 藤田利治, 「日本人自殺者数とその増減による空間集積性の評価」, 『厚生の指標』, 厚生労働統計協会, 60 (6), pp.1-8, 2013. (査読あり)
11. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Tour planning for sightseeing with time-dependent satisfactions of activities and traveling times," *American Journal of Operations Research*, Vol.3, pp.369-379, 2013. (査読あり)
12. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Route planning problem under fuzzy sightseeing times and satisfaction values of sightseeing places," *Proceedings of 2013 Joint IFSA World Congress NAFIPS Annual Meeting (IFSA/NAFIPS2013)*, pp.140-145, 2013. (査読あり)
13. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Personal tour planning incorporating standard tour routes and tourist satisfaction," *Proceedings of 2013 IEEE 6th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA2013)*, pp.143-148, 2013. (査読あり)
14. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Interactive Multi-objective Route Planning for Sightseeing on Time-expanded Networks under Various Conditions," *Procedia Computer Science*, 22, pp.221-230, 2013. (査読あり)
15. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "A flexible tour route planning problem with time-dependent parameters considering rescheduling based on current conditions," *Proceedings of 2013 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2013)*, pp.2091-2096, 2013. (査読あり)
16. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Sightseeing route planning responding various conditions with fuzzy random satisfactions dependent on tourist's tiredness," *Proceedings of the International Multi Conference of Engineers and Computer Scientists 2014 (IMECS2014)*, pp.1232-1236, 2014. (査読あり)
17. Hasuike, T. and Katagiri, H., "Interactive decision making for uncertain minimum spanning tree problems with total importance based on a risk-management approach," *Applied Mathematical Modelling*, Vol.37, No.6, pp.4548-4560, 2013. (査読あり)
18. Hasuike, T. and Katagiri, H., "Robust-based interactive portfolio selection problems with an uncertainty set of returns," *Fuzzy Optimization and Decision Making*, Vol.12, pp.263-288, 2013. (査読あり)

19. Tsuda, H. and Ando, M., "Credit Risk Evaluation of Investment Corporation Bonds," *Proceedings of 2013 IEEE 6th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA2013)*, pp.179-184, 2013. (査読あり)
20. 渡邊中穂美, 津田博史,「地方債価格モデルによる地方自治体の信用リスク評価について」,『2013 IEEE SMC Hiroshima Chapter 若手研究会報告論文集』, pp.41-44, 2013. (査読なし)
21. Okuhara, K., Wu, C.H., Tsuda, H., Tsubaki, H. and Sonehara, N., "Knowledge discovery based on fuzzy, entropy and dominance relation," *International Journal of Innovative Computing, Information and Control*, Vol.9, pp.3573-3584, 2013. (査読あり)
22. Katagiri, H., Uno, T., Kato, K., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "An interactive multiobjective programming approach to tour route problems," *Proceedings of 2013 IEEE 6th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA2013)*, pp.167-171, 2013. (査読あり)
23. Yamauchi, T., Inagaki, M., Yonemoto, N., Iwasaki, M., Inoue, M., Akechi, T., Iso, H. and Tsugane, S., "Death by suicide and other externally-caused injuries following a cancer diagnosis: the Japan Public Health Center-Based Prospective Study," *Psychooncology*, in press. (査読あり)
24. Yamauchi, T., Fujita, T., Tachimori, H., Takeshima, T., Inagaki, M. and Sudo, A., "Age-adjusted relative suicide risk by marital and employment status over the past 25 years in Japan," *J Public Health*, 35 (1), pp.49-56, 2013. (査読あり)
25. Suka, M., Yamauchi, T., Tachimori, H. and Takeshima T., "Suicide trends and geographical variations in Japan," *Proceedings of Joint Meeting of the IASC Satellite Conference and 8th Conference of the Asian Regional Section of the IASC*, pp.249-55, 2013. (査読なし)

[著書等]

1. 椿広計,「はじめに」, 大藤正, 黒河英俊 (編), 『知の巡りを良くする手法の連携活用 サービス・製品の価値を高める価値創生プロセスのデザイン』, 日本規格協会, 2014.
2. 河村敏彦, 高橋武則 (著), 『統計モデルによるロバストパラメータ設計』, 日科技連出版社, 2013.
3. 津田博史,「序論」, 日本金融・証券計量・学学会 (編集), 『リスクマネジメント (ジャフィー・ジャーナル—金融工学と市場計量分析)』, 朝倉書店.
4. 山内貴史, 竹島正 (著), 「自殺総合対策大綱の改正」, 精神保健福祉白書編集委員会 (編), 『精神保健福祉白書 2014 年版』, 中央法規出版, 2013.

[解説・総説]

1. 椿広計,「ビッグデータ時代のアナリティックスデータの価値を増大させるヒトとコト (特集 ビッグデータ時代のアナリティクス)」,『経営システム (日本経営工学会)』, 23, pp.218-223, 2013.
2. 椿広計,「医療の質の達成は人ではなくシステムの問題 (学術シンポジウム 医療安全から医療の質へ)」,『日本医療・病院管理学会誌』, 50, pp.238-241, 2013.
3. 椿広計,「統計を深く知る: 古典統計対話: 縦横無尽の統計的研究」,『統計』, 4 (10), pp.40-44, 2013.
4. 大西俊郎,「種々の確率分布 (第 2 章)」, 二宮嘉行, 大西俊郎, 小林景, 椎名洋, 笛田薫, 田中研太郎, 岡田謙介, 大屋幸輔, 廣瀬英雄, 折笠秀樹 (著),『統計学 (日本統計学会公式認定 統計検定 1 級対応)』, 東京図書, 2013.
5. 松本俊彦, 小高真美, 山内貴史, 川野健治, 藤森麻衣子, 勝又陽太郎, 赤澤正人, 廣川聖子, 亀山晶子, 白川教人, 竹島正,「心理学的剖検研究と今後の方向」,『精神保健研究』(国立精神・神経医療研究セン

- タ一精神保健研究所），第 60 号, pp.89-96.
6. 山内貴史, 松本俊彦, 「自殺と文明」, 『最新精神医学』, 18 卷, 5 号, pp.55-60, 2013.
- [その他]
1. 田村義保 (編), 『スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会』(統計数理研究所共同研究リポート 314), 第 1 卷, 2014.
- <会議発表等>
- [招待講演]
- 国際会議
1. Tsubaki, H., "The Grammar of Technology Development for Value Creation," 9th TRIZ symposium, Tokyo, Japan, 2013.9.5.
 2. Tsubaki, H., "The Grammar of Technology Development for Value Creation," 2013 IEEE 13th International Conference on Data Mining Workshops, Dallas, U.S.A., 2013.12.8.
 3. Tsubaki, H., "Risk-based Quality Management," The 2nd DIA Clinical Operation and Monitoring Workshop, Tokyo, Japan, 2014.2.27.
 4. Kubota, T. and Tsubaki, H., "Text Mining for Tweet Data of Suicide in Japan," The Autumn Conference 2013 of The Korean Statistical Society, Seoul, Korea, 2013.11.2.
 5. Kubota, T., Fushiki, T. and Tsubaki, H., "Statistical Modelling for Suicidal Risks in Japan: Detection of Recent Decreasing the Number of Suicide in Japan," Joint Meeting of the IASC Satellite Conference and the 8th Conference of the Asian Regional Section of the IASC, Seoul, Korea, 2013.8.22.
- 国内会議
1. 椿広計, 「加工統計の不確かさ」, 日本品質管理学会第 144 回シンポジウム「統計・データの質マネジメント・ビッグデータ時代に問われる情報収集の質とマネジメント」, 日本規格協会 東高円寺ビル, 2013 年 4 月 9 日.
 2. 椿広計, 「精密累積データのセミパラメトリックポアソンモデル」, 田口玄一博士一周忌追悼シンポジウム, 筑波大学 東京キャンパス, 2013 年 5 月 13 日.
 3. 久保田貴文, 椿広計, 「自殺に関連する tweet データの解析」, 日本行動計量学会第 41 回大会, 東邦大学 習志野キャンパス, 2013 年 9 月 6 日.
 4. 津田博史, 一藤裕, 「Web データにから推定した京都市内のホテルの稼働率」, 日本金融・証券計量・工学学会「高頻度データ・ビッグデータ活用法」研究部会第 1 回研究会, 慶應義塾大学ビジネススクール協生館, 2013 年 6 月 30 日.
 5. 津田博史, 一藤裕, 「Web データに基づく京都市のホテルの稼働率の推定」, 2013 年度日本オペレーションズ・リサーチ学会「数理的手法の展開と応用」研究部会第 8 回研究集会, 福井工業大学 福井キャンパス, 2013 年 10 月 1 日.
 6. 津田博史, 「地方自治体の信用リスク評価」, 第 2 回金融シンポジウム「ファイナンスリスクのモデリングと制御」, 一橋講堂 中会議場, 2013 年 11 月 6 日.
 7. 津田博史, 一藤裕, 曾根原登, 椿広計, 「Web データを用いた京都市のホテル業界に関する応用研究」, 第 18 回情報知識学フォーラム「ビッグデータと新たな知識発見」, 同志社大学 新町キャンパス, 2013 年 12 月 6 日.

8. 片桐英樹, 蓮池隆, 「統計理論に基づく数理的妥当性を有したメンバーシップ関数構築法の開発」, データ中心リスク科学基盤整備プロジェクト・ワークショップ「行動と現象との不確かさを巡って」, 統計数理研究所, 2013年11月12日.
9. 山内貴史, 立森久照, 竹島正, 久保田貴文, 椿広計, 「人口動態調査を用いた自殺対策のための地域データ基盤の作成とその利活用」, 国際ワークショップ: 社会のイノベーションを誘発する情報システム, 国立情報学研究所, 2014年2月5日.

[一般講演]

■国際会議

1. Takizawa, Y. and Fukasawa, A., "Knowledge on Events in Time, Space, and Motion with a Synchronous Neural System," Proc. of the International Conference on Neurology'13, Recent Researches in Medicine, Biology and Bioscience, pp.104-109, Chania, Greece, 2013.8.27.
2. Fukasawa, A. and Takizawa, Y., "Activity of a Neuron and Formulation of a Neural Group," Proc. of the International Conference on Neurology'13, Recent Researches in Medicine, Biology and Bioscience, pp.94-103, Chania, Greece, 2013.8.27.
3. Takizawa, Y. and Fukasawa, A., "Organization of a Neural System and its Operation for Sensing of Multiple Events in 3D Space," Proceedings of the International Conference on Biomedicine and Health Engineering (BIHE'14), Recent Advances in Energy, Environment, Biology and Ecology, pp.112-118, Tenerife, Spain, 2014.1.10.
4. Fukasawa, A. and Takizawa, Y., "Activity of a Neuron and Self-Systematization of a Neural Group," Proc. of the International Conference on Biomedicine and Health Engineering (BIHE'14), Recent Advances in Energy, Environment, Biology and Ecology, pp.25-32, Tenerife, Spain, 2014.1.10.
5. Kubota, T., Tomita, M., Ishioka, F., Fujino, T. and Tsubaki, H., "Detection of Spatial Clusters for High and Low Suicidal Risk Areas in Japan," The 2013 conference of the International Federation of Classification Societies (IFCS-2013), Tilburg, The Netherlands, 2013.7.14.
6. Tomita, M., Kubota, T., Ishioka, F. and Fujita, T., "Comparison of Spatial Clusters between Suicide Data and Its Increase-decrease Rates in Japan," Conference of the International Federation of Classification Societies (IFCS-2013), p.188, Tilburg, Netherland, 2013.7.15-17.
7. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Personal tour planning incorporating standard tour routes and tourist satisfaction," 2013 IEEE 6th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA2013), Hiroshima, Japan, 2013.7.13.
8. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "A flexible tour route planning problem with time-dependent parameters considering rescheduling based on current conditions," 2013 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2013), Manchester, U.K., 2013.10.15.
9. Hasuike, T., Katagiri, H., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Sightseeing route planning responding various conditions with fuzzy random satisfactions dependent on tourist's tiredness," International MultiConference of Engineers and Computer Scientists 2014 (IMECS2014), Hong Kong, China, 2014.3.12.
10. Hasuike, T. and Katagiri, H., "Interactive portfolio selection problems with investor's subjective feeling to future return and risk," 17th International Conference on Industrial Engineering Theory,

- Applications and Practice, Busan, Korea, 2013.10.6-9.
11. Katagiri, H., Uno, T., Kato, K., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Route planning problem under fuzzy sightseeing times and satisfaction values of sightseeing places," 2013 Joint IFSA World Congress NAFIPS Annual Meeting (IFSA/NAFIPS2013), Edmonton, Canada, 2013.6.24.
 12. Katagiri, H., Uno, T., Kato, K., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "Flexible Route Planning for Sightseeing under Uncertain Conditions," EURO/INFORMS 2013, Roma, Italy, 2013.7.3.
 13. Katagiri, H., Uno, T., Kato, K., Tsubaki, H. and Tsuda, H., "An interactive multiobjective programming approach to tour route problems," 2013 IEEE 6th International Workshop on Computational Intelligence and Applications (IWCIA2013), Hiroshima, Japan, 2013.7.13.
 14. Uno, T., Katagiri, H. and Kato, K., "An interactive approach with four criteria for stochastic weighted Weber problems," 15th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2013), Las Vegas, U.S.A, 2013.7.21-26.
 15. Katagiri, H., Uno, T. and Kato, K., "Possibilistic Stackelberg Solutions to Bilevel Linear Programming Problems with Fuzzy Parameters," 2013 Joint IFSA World Congress NAFIPS Annual Meeting (IFSA/NAFIPS2013), Edmonton, Canada, 2013.6.24-28.
 16. Katagiri, H., Uno, T. and Kato, K., "Possibilistic Mean Models for Linear Programming Problems with Discrete Fuzzy Random Variables," 2013 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2013), Manchester, U.K., 2013.10.13-16.
 17. Yamauchi, T., "Activity report on the Media Conferences in Japan, 2011-2012.," Second Meeting for the WHO World Suicide Report and Related Events, Tokyo, Japan, 2013.12.18.
 18. Suka, M., Yamauchi, T., Tachimori, H. and Takeshima, T., "Suicide trends and geographical variations in Japan.," 8th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing, Seoul, Korea, 2013.8.22-23.

■国内会議

1. 植村芳樹, 椿広計, 「無差別状態を伴うファジイ意思決定」, 応用統計学会 2013 年度年会年次大会, パルセいいざか, 2013 年 5 月 24 日.
2. 椿広計, 春日文子, 大西俊郎, 逸見昌之, 「食品安全のための抜き取り検査方式について」, 2013 年度統計関連学会連合大会, 大坂大学 豊中キャンパス, 2013 年 9 月 9 日.
3. 大野忠士, 椿広計, 「フィナンシャルストレス予測モデル」, 2013 年度統計関連学会連合大会, 大坂大学 豊中キャンパス, 2013 年 9 月 10 日.
4. 久保田貴文, 椿広計, 「自殺に関連する tweet データの解析」, 日本計算機統計学会第 27 回大会, 弘前大学 文京町キャンパス, 2013 年 5 月 18 日.
5. 蓮池隆, 片桐英樹, 椿広計, 津田博史, 「観光経路情報を利用した観光者行動コーパス構築への一考察」, 2013 年度日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会, 徳島大学 常三島キャンパス, 2013 年 9 月 11 日.
6. 蓮池隆, 片桐英樹, 椿広計, 津田博史, 「多様な情報からの観光満足度設定手法を利用した観光経路構築」, 2013 年度日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会, 徳島大学 常三島キャンパス, 2013 年 9 月 11 日.
7. 蓮池隆, 片桐英樹, 加藤浩介, 津田博史, 「ホテル予約プランにおける最適部屋数割当問題」, 第 51 回日本経営システム学会全国研究発表大会, 広島経済大学, 2013 年 12 月 7 日.
8. 蓮池隆, 片桐英樹, 椿広計, 「数理計画問題における妥当なメンバシップ関数構築法の一考察」, 第 29 回

- ファジィシステムシンポジウム (FSS2013), 大阪国際大学 枚方キャンパス, 2013 年 9 月 9-11 日.
9. 渡邊中穂美, 津田博史, 「地方債価格モデルによる地方自治体の信用リスク評価について」, 2013 IEEE SMC Hiroshima Chapter 若手研究会, 広島市立大学, 2013 年 7 月 13 日.
 10. 渡邊中穂美, 津田博史, 「日本の地方自治体の信用リスク評価」, 2013 年度統計関連学会連合大会, 大坂大学 豊中キャンパス, 2013 年 9 月 10 日.
 11. 大津絢子, 津田博史, 「消費者のホテルプラン選択行動の分析」, 2013 年度統計関連学会連合大会, 大坂大学 豊中キャンパス, 2013 年 9 月 10 日.
 12. 津田博史, 多田舞衣, 山本俊樹, 一藤裕, 曾根原登, 椿広計, 「Web データを用いた京都市内のホテルの稼働率の推定」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2014 年春季研究発表会, 大坂大学 豊中キャンパス, 2014 年 3 月 6 日.
 13. 宇野剛史, 片桐英樹, 加藤浩介, 「確率 Weber 問題に対する 4 つの基準を同時に考慮した対話型アプローチ」, 第 5 回横幹連合コンファレンス, 香川大学 幸町北キャンパス (香川), 2013 年 12 月 21-22 日.
 14. 宇野剛史, 片桐英樹, 加藤浩介, 「ファジィ多目的立地計画問題に対する対話的解法」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2014 年春季研究発表会, 大阪大学 豊中キャンパス, 2014 年 3 月 5-6 日.
 15. 片桐英樹, 加藤浩介, 宇野剛史, 「ファジィ 2 レベル計画問題に対する可能性と必然性に基づく Stackelberg 解の導出」, 第 29 回ファジィシステムシンポジウム(FSS2013), 大阪国際大学 枚方キャンパス (大阪), 2013 年 9 月 9-11 日.
 16. 中西三春, 山内貴史, 竹島正, 「日本における自殺対策の検証評価の課題」, 第 33 回日本社会精神医学会, 一橋講堂, 2014 年 3 月 20-21 日.
 17. 須賀万智, 山内貴史, 立森久照, 竹島正, 「自殺死亡と地域特性に関する分析 : マルチレベルモデルによる高・低リスク地域の探索」, 第 24 回日本疫学会学術総会, 日立システムズホール仙台, 2014 年 1 月 24-25 日.
 18. 山内貴史, 立森久照, 竹島正, 久永彩香, 「環太平洋地域における配偶関係と自殺死亡の関連の国際比較」, 第 3 回自殺リスクに関する研究会, 統計数理研究所, 2013 年 10 月 17 日.
 19. 須賀万智, 山内貴史, 立森久照, 竹島正, 「自殺死亡と地域特性に関する分析 : マルチレベルモデルによる高・低リスク地域の探索」, 第 3 回自殺リスクに関する研究会, 統計数理研究所, 2013 年 10 月 17 日.
 20. 立森久照, 山内貴史, 「自殺対策のための自殺死亡の地域統計の活用」, 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター第 5 回生物統計ネットワークシンポジウム「疫学研究における生物統計学の発展と貢献」, ステーションカンファレンス東京, 2014 年 3 月 18 日.
 21. 山内貴史, 「自殺対策の現状と今後 : 研究班以外の立場から」, パネル討論会「自殺総合対策に必要な融合的研究 : その現状と今後」, 一橋講堂 中会議場, 2014 年 3 月 2 日.

[ポスター発表]

■国際会議

1. Kanefuji, K. and Iwase, K., "K Distribution Related to Environmental Statistics," *The Joint Statistical Meetings 2013 (JSM2013)*, Montreal, Canada, 2013.8.5.
2. Suka, M., Yamauchi, T., Tachimori, H. and Takeshima, T., "Geographical variations and contextual effects on suicide mortality in Japan.", XXVII International Association for Suicide Prevention (IASP) World Congress, Oslo, Norway, 2013.9.24-28.

■国内会議

1. 熊谷優子, 大田えりか, 大西俊郎, 渋谷健司, 関崎勉, 「専門家の意見を解析する手法(expert elicitation)

を用いた食品由来疾患の食品寄与率推定」，第 34 回日本食品微生物学会学術総会，タワーホール船堀，2013 年 10 月 3 日。

<受 賞>

1. 河村敏彦, 2013 年度日経品質管理文献賞（日本経済新聞社）, 2013 年 11 月. (河村敏彦, 高橋武則（著），『統計モデルによるロバストパラメータ設計』，日科技連出版社, 2013.)
2. 久保田貴文, 第 2 回藤田利治賞（精神保健統計分野）, 2014 年 3 月.
3. 山内貴史, 第 2 回 藤田利治賞（精神保健統計分野）, 2014 年 3 月.
4. 山内貴史, 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 平成 25 年度研究報告会 若手奨励賞, 2014 年 3 月.

③ その他の成果発表

<新聞記事>

1. 山内貴史, 「国立がんセンター調査 がん診断後 自殺リスク増 10 万人追跡「1 年以内、約 20 倍」」，朝日新聞, 2014 年 4 月 23 日朝刊, p.37.
2. 山内貴史, 「がん診断 1 年以内 自殺リスク 20 倍 心理面の支援 重要に」，読売新聞, 2014 年 4 月 23 日朝刊, p.38.
3. 山内貴史, 「患者、ストレスなどで がん診断後 1 年、自殺の危険 20 倍」，日本経済新聞, 2014 年 4 月 23 日夕刊, p.14.
4. 山内貴史, 「10 万人調査 がん診断後 自殺リスク 1 年以内 20 倍 サポート充実必要」，毎日新聞, 2014 年 4 月 22 日夕刊, p.1.

<イベント開催>

1. 田村義保, 2013 年度統計関連学会連合大会企画セッション「スポーツ統計と統計科学の融合」，大阪大学豊中キャンパス, 2013 年 9 月 9 日
2. 田村義保, スポーツデータ解析意見交換・勉強会, 立教大学池袋キャンパス, 2013 年 9 月 29 日.
3. 田村義保, 第 3 回スポーツデータ解析コンペティション発表審査会, 立教大学池袋キャンパス, 2013 年 12 月 26 日.
4. 田村義保, 第 3 回スポーツデータ解析コンペティション受賞者講演会, 立教大学池袋キャンパス太刀川記念館, 2014 年 3 月 6 日.

以上を日本統計学会スポーツ統計分科会と共に。

